

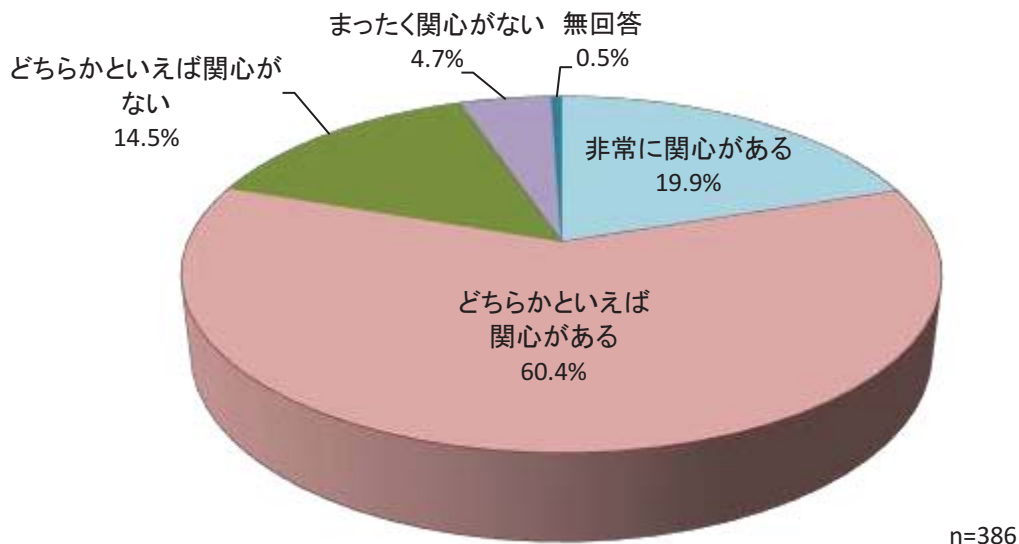
6. 生物多様性について

(1) 自然環境について関心があるか

◇ 「非常に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた【関心がある（計）】が約8割

問20	自然環境について関心がありますか。	(○は1つ)
		n=386
1	非常に関心がある	19.9%
2	どちらかといえば関心がある	60.4%
3	どちらかといえば関心がない	14.5%
4	まったく関心がない	4.7%
	(無回答)	0.5%

<図IV-6-1>全体



自然環境について関心があるかについては、「非常に関心がある」が19.9%、「どちらかといえば関心がある」が60.4%で、これらを合わせた【関心がある（計）】は80.3%であった。一方、「どちらかといえば関心がない」が14.5%、「まったく関心がない」が4.7%で、これらを合わせた【関心がない（計）】は19.2%であった。(図IV-6-1)

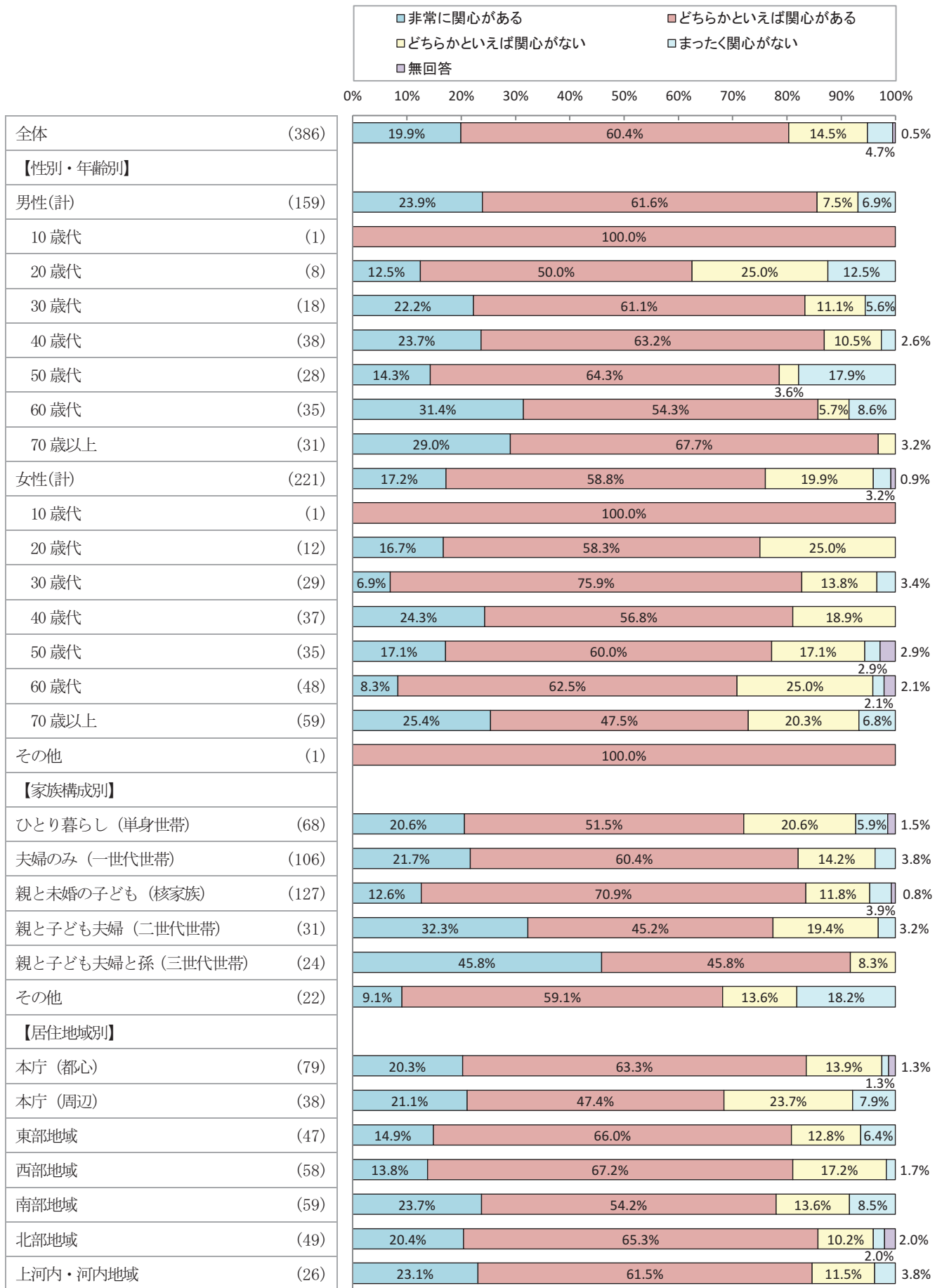
<参考>

性別・年齢別で見ると、【関心がある（計）】は<その他>を除くと<男性/10歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が96.7%であった。一方、【関心がない（計）】は<男性/20歳代>が37.5%で最も高く、次いで<女性/60歳代>と<女性/70歳以上>がいずれも27.1%であった。(図IV-6-2)

家族構成別で見ると、【関心がある（計）】は<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が91.6%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども（核家族）>が83.5%であった。一方、【関心がない（計）】は<その他>を除くと<ひとり暮らし（単身世帯）>が26.5%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が22.6%であった。(図IV-6-2)

居住地域別で見ると、【関心がある（計）】は<北部地域>が85.7%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が84.6%であった。一方、【関心がない（計）】は<本庁（周辺）>が31.6%で最も高く、次いで<南部地域>が22.1%であった。(図IV-6-2)

<図IV-6-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

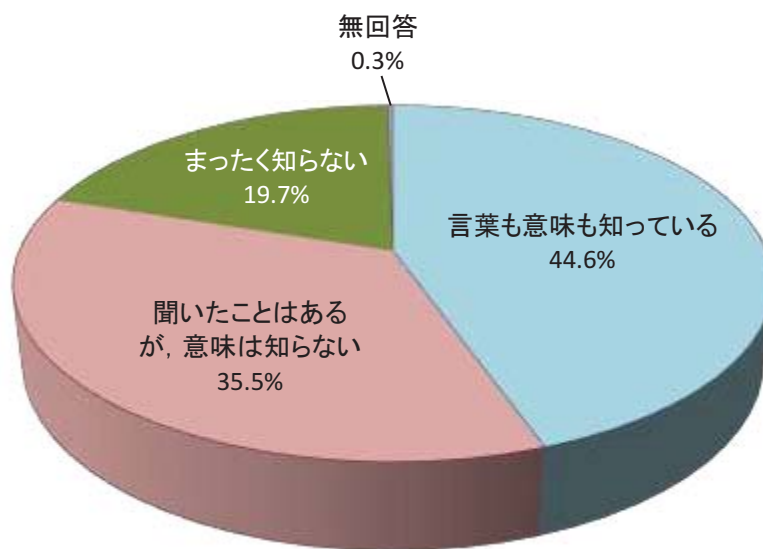


(2) 「生物多様性」の認知度

◇ 「言葉も意味も知っている」が4割半ば

問 2 1	「生物多様性」(※)という言葉を知っていますか。	
	※「生物多様性」とは、「生きものの個性と自然とのつながりの豊かさ」のことです。地球上には様々な個性を持った生きものがいて、それらが自然環境の中でつながりあっています。このようなことを知っていれば、「生物多様性」の言葉の意味も知っていることとします。(○は1つ)	
		n=386
1	言葉も意味も知っている	44.6%
2	聞いたことはあるが、意味は知らない	35.5%
3	まったく知らない	19.7%
	(無回答)	0.3%

<図IV-6-3>全体



n=386

「生物多様性」の認知度については、「言葉も意味も知っている」が44.6%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、意味は知らない」が35.5%、「まったく知らない」が19.7%であった。(図IV-6-3)

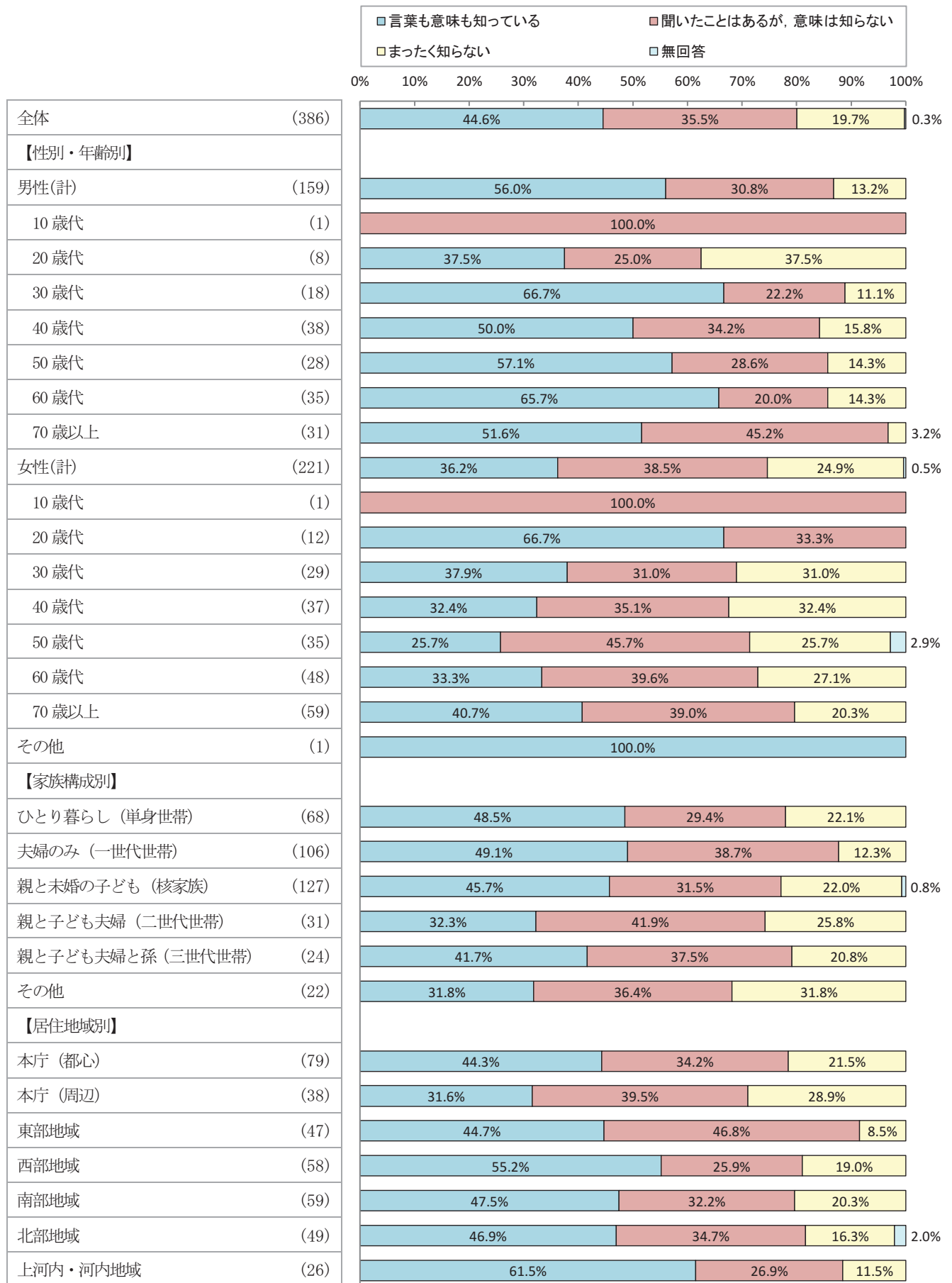
<参考>

性別・年齢別で見ると、「言葉も意味も知っている」は<その他>を除くと<男性/30歳代>と<女性/20歳代>がいずれも66.7%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が65.7%であった。「聞いたことはあるが、意味は知らない」は<男性/10歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が45.7%であった。(図IV-6-4)

家族構成別で見ると、「言葉も意味も知っている」は<夫婦のみ(一世帯世帯)>が49.1%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が48.5%であった。「聞いたことはあるが、意味は知らない」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が41.9%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が38.7%であった。(図IV-6-4)

居住地域別で見ると、「言葉も意味も知っている」は<上河内・河内地域>が61.5%で最も高く、次いで<西部地域>が55.2%であった。「聞いたことはあるが、意味は知らない」は<東部地域>が46.8%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が39.5%であった。(図IV-6-4)

<図IV-6-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



(3) 外来種が及ぼす影響の認知度

◇ 「知っている」が8割半ば

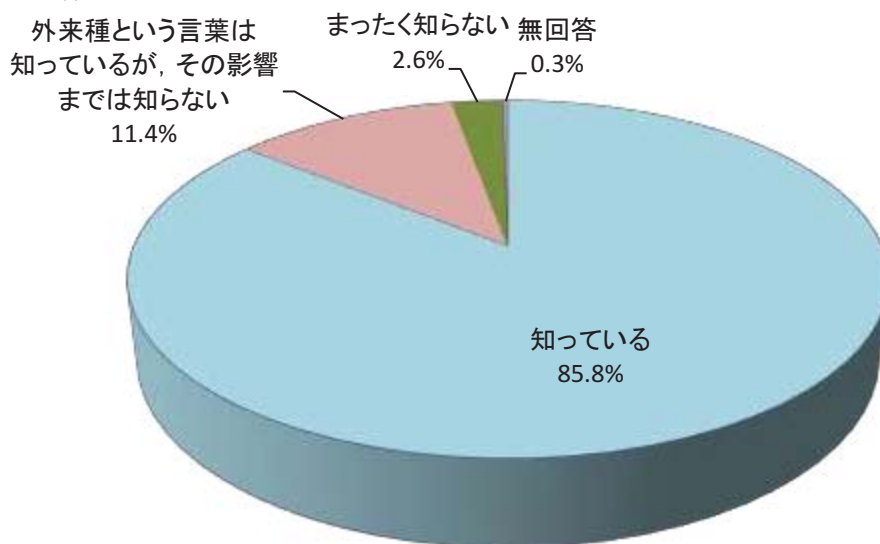
問22 外来種(※)が及ぼす影響を知っていますか。

※「外来種」とは、「もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生きもの」のことです。外来種は、もともといた在来の生きものの生息地を奪ったり、人の生命・身体に危険を及ぼしたり、田畑を荒らしたり、様々なことに悪影響を及ぼす場合があります。このようなことを知っていれば、外来種が及ぼす影響を知っていることとします。(○は1つ)

n=386

1	知っている	85.8%
2	外来種という言葉は知っているが、その影響までは知らない	11.4%
3	まったく知らない	2.6%
	(無回答)	0.3%

<図IV-6-5>全体



n=386

外来種が及ぼす影響の認知度については、「知っている」が85.8%で最も高く、次いで「外来種という言葉は知っているが、その影響までは知らない」が11.4%、「まったく知らない」が2.6%であった。(図IV-6-5)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「知っている」は<その他>を除くと<男性/10歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が97.3%であった。「外来種という言葉は知っているが、その影響までは知らない」は<女性/20歳代>が50.0%で最も高く、次いで<男性/30歳代>と<女性/60歳代>がいずれも16.7%であった。(図IV-6-6)

家族構成別で見ると、「知っている」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が95.8%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が89.8%であった。「外来種という言葉は知っているが、その影響までは知らない」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が16.1%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が14.7%であった。(図IV-6-6)

居住地域別で見ると、「知っている」は<本庁(周辺)>が92.1%で最も高く、次いで<南部地域>が89.8%であった。「外来種という言葉は知っているが、その影響までは知らない」は<東部地域>が19.1%で最も高く、次いで<西部地域>が13.8%であった。(図IV-6-6)

<図IV-6-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

